

『ホームランを打ったことのない君に』

～五年生 31ページ<この本、読もう>～

長谷川集平



タイトルを見た時、きっとホームランを打てなくて落ち込んでいる子どもを慰めるようなお話だと思いました。確かにそういった面があるお話でしたが、決してそれだけではない内容でした。

頑張っているのにかなわない望みの話ではなく、その前の段階の目標がまだ夢としてしかとらえられず、努力しきれていない子と、少し悲しい経験をしている友人との穏やかなお話です。

きっと、ホームランでなくてもいいのです。テスト100点でも、給食を全部食べるでも、仲良くしたい子と仲良くなれないでも、何かうまくいかないことに置きかえて読めるお話です。

間違いなく日本の少年野球が話の舞台なのですが、主人公の名前や街並みや色づかいなど、不思議と無国籍な印象を与えます。でも、王貞治の話なども出てきて、ファンタジーに寄りすぎません。

そして、とてもアーティステックな本です。

色づかいや文字の大きさや配置、あそこの絵の影の意味、髪の毛のはねてる意味、セリフの大きさと場所の意味。表情の陰影、背景の色や風景。眺める絵ではなく、思わずじっくり見入ってしまい、想像力を刺激されます。決定的瞬間である主人公ルイの打席が描かれていないのも、絵本というメディアへの挑戦のように見えます。

ホームランは「... (略) 自分の力でホーム、つまり家を出て、ぐらりと世界を駆け抜けて、また家に帰ってくるんだ。自分の力で」という仙ちゃんの言葉が心に残りました。

●読むのにかかる時間 15分

●絵本 32ページ

●理論社